

校長室から応援メッセージ④

令和3年9月3日（金）

「受験勉強は、受験ではなく、勉強です」

皆さん、こんにちは。後期の授業が始まるにあたり、少し話をさせてください。まず皆さんには新型コロナウイルス感染予防の取組にご協力いただいています。自習室の閉鎖など通常の学習環境を十分に提供できず、たいへん申し訳なく思っています。もうしばらく不自由をおかけしますが、よろしく願います。

さて皆さんは志望校合格を目標に毎日机に向かいますが、目標を意識しすぎて肝心の勉強が手につかない、そうなってしまっただけではいけません。受験勉強を（無理やりですが）受験と勉強に分けると、勉強の方がずっと大事です。受験のために勉強しているといえはそうなのですが、運にも左右されやすい受験と違い、それまでの日々、自らを律しつつ仲間同士励まし合い、学ぶことに対する謙虚で貪欲な気持ちを持ち続けることはこれからの人生を切り開く大きな力に必ずなります。

東京オリンピックやパラリンピックでメダルを獲得した人の勝利の瞬間の喜びはとても大きい、しかしその喜びはどんなに大きくても一時的です。練習に打ち込んだ生活の一つひとつの場面を振り返り、じわじわとわき上がってくる喜びこそが本物だと私は思います。これはメダルの有無と関係なく、予選で敗退したり、あるいは出場そのものが叶わなかったりした人も、練習に打ち込んでいる自分が好き、練習中心の生活がいとおいしい、ということではないかと思えます。

皆さんには、勉強している自分が好きだ、机に向かい続ける自分が誇らしい、そういう気概をもって毎日を過ごしてくださることを望みます。今日一日の充実、それが志望校合格への確かな道で、そして受験が充実した日々の先にあるならば、第一志望かどうかに関係なく期待通りの大学生活が待っているはずで

私たちが今まさに生きている現在という時間は、まだ来ぬ未来と既に過ぎ去った過去とに挟まれた、ほんの一瞬の、幅のない時間です。今、と指し示そうとしたその途端に過去になります。そうやって膨らみ続ける過去にはこれまでの全ての経験が丸ごと記憶として保存されています。人生の時間の最先端にいる私たちは過去の記憶とともにあって過去の記憶に支えられて生きているのです。

その記憶においては、何かを得た喜びや何かを失った悲しみの一時的なありありとした感情の高まりは薄れ、むしろその前後に平凡な日々を淡々と生きる姿があって、そこから来る落ち着き、覚悟が大きな場所を占めていると思えます。

努力した者は報われる、と言いますが、結果によって報われるのは一時的です。生涯にわたって自分を真に支えるのは、平凡な日々の努力の在り方なのだと思えます。進学する大学の名前より、何をどのようにどれだけ勉強して進学するかということの方がその後の人生にずっと有益であるはずで